

感染対策委員会と ICT の役割

小林寛伊*

キーワード ● 感染対策チーム ICT 感染対策委員会 リンクナース

はじめに

初めて infection control sister (ICS) が任命されたのは、1959 年、イングランドの Exeter で、黄色ブドウ球菌の病院感染と闘うことが任務であった^{1,2)}。アメリカ合衆国における infection control nurse (ICN) は、1963 年、スタンフォード大学で最初に任命された³⁾。1968 年までに Centers for Disease Control (略称は一貫して CDC であるが、1946～1970 年は Communicable Disease Center, 1980 年からは Centers, 1991 年からは Control and Prevention となる) は、病院感染のサーベイランス、予防、制圧の教育コースを新設した。

病院感染関連学会としては、1980 年、連合王国(イギリス)に Hospital Infection Society が、アメリカ合衆国に Society of Hospital Epidemiologists of America が設立され、日本では 1986 年 2 月に日本環境感染学会が設立された。

感染対策を効果的に実践していくためには、適切な組織化と、その実効的活動が肝要である。感染対策委員会 (infection control committee ; ICC) をもたない病院はほとんどない時代と

なったが、感染対策委員会および感染対策チーム (infection control team ; ICT) が実効的に活動している病院は決して多くないのが現状であろう。

I. 感染対策の病院内組織

病院長は、感染対策の効果的遂行に責任をもたなければならない。また、病院上層部の支援なしには感染対策プログラムの実行は不可能である。

小規模の病院においては、感染対策委員会が ICT を兼ねている場合が多く、それなりに機能していれば可とするものである。しかし、規模の大きい病院においては、図 1 に示すように、病院長の諮問機関としてのスタッフである感染対策委員会と、実践チームとして日常業務を行うラインとしての ICT とに分けて考えることが望ましい。ICT のメンバーの一部または全員が感染対策委員会の構成員の一部となる。

実践チームが、感染対策委員会の下について働く組織図もあるが、Wenzel の報告にあるスタンフォード大学病院の例でも³⁾、連合王国においても⁴⁾、図 1 に類した組織をあげており、実践チームが、病院長あるいはこれに代わる管理者から権限を委譲されてラインとして活動するような形が、実践的效果を上げやすい。

II. 感染対策チーム ICT

ICT は次のような職種で構成される。

① infection control doctor ; ICD (望ましくは



* Kobayashi Hiroshi : 関東病院院長。昭和38年東京大学医学部卒業。平成3年東京大学医学部附属病院院内感染対策部長。平成5年東京大学医学部教授。平成6年同感染制御学教授。平成8年関東通信病院(現関東病院)院長。主研究領域/感染制御学, 手術医学, 外科学。

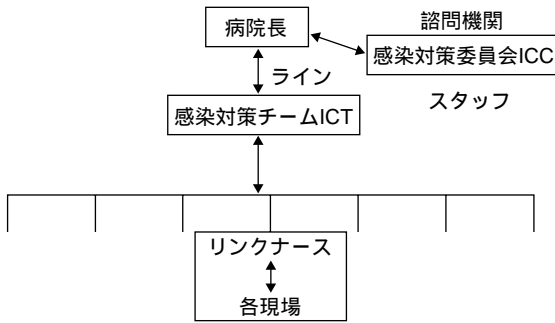


図1 望ましい病院感染対策組織図

認定 ICD)

- ② infection control nurse ; ICN (看護協会認定者はいまだ少なく、各病院独自に任命した ICN)
- ③臨床薬剤師
- ④細菌検査技師
- ⑤その他(事務担当者,リンクナース 後述など)

ICD, ICN は、将来は専任制となるであろうが、日本の現状においては併任であることもやむをえず、専任制をとらなければならない病院はごく限られている。

ICT の任務としては以下の諸点があげられる。

- ①年間計画の作成と病院長への報告
- ②年間計画の実行とアウトカム評価
- ③年間予算計画の作成と交渉
- ④最低週 1 回の病棟ラウンド ward liaison
- ⑤必要な対象限定サーベイランス targeted/focused/selective surveillance (関連科との協力による)
- ⑥サーベイランス結果の病院長、感染対策委員会、現場への報告
- ⑦アウトブレイクの防止と発生時の早期特定および制圧
- ⑧現場への介入 intervention(教育的介入、設備備品の介入)
- ⑨感染対策マニュアルの作成

⑩職業感染防止と針刺し事故などへの対応

⑪結核、疥癬、MRSA、VRE などの交差感染防止

ICT の業務は横断的なもので、現場における医師、看護婦などへの介入も重要な業務であるため、人間関係を円滑に維持できる能力が強く求められる。しかも、人の話をよく聞き、その時点で最良な策を理解しやすいように説明、説得できることが必要である。現場のいろいろな職種の職員に、感染対策を遂行する意欲をもたせることも大切である。

III. 感染対策委員会 ICC

施設によって条件は異なるが、感染対策委員会は、通常は諮問機関であり、以下のような任務を行うことが望ましい。

- ① ICT への助言と支援
- ②病院長の注意喚起
- ③感染症およびその対策上の問題点に関する報告書の検討
- ④アウトブレイク対策の検討
- ⑤年間感染対策プログラムの検討
- ⑥予算有効活用への助言
- ⑦ストラテジーに対する助言と確認
- ⑧各職種の教育推進
- ⑨各分野間の交流促進

規模の小さな施設では、感染対策委員会が ICT の業務を担うところもあるが、現状では容認すべき組織図であろう。感染対策委員会は次のような構成員からなる。

- ① ICT
- ②病院長または病院長代理*
- ③感染症専門家
- ④各臨床分野代表
- ⑤看護部長またはその代理*
- ⑥薬剤部長またはその代理*
- ⑦事務担当者

(* 「平成 12.3.17 保険発 29・老健 51」による “ 院内感染防止対策の基準 ” においては、 “MRSA

院内感染対策委員会は、病院長または診療所長、看護部長、薬剤部門の責任者、検査部門の責任者、事務部門の責任者、感染症対策に関し相当の経験を有する医師などの職員から構成されていること”と記載されている。月1回程度、定期的に開催することとしている)

IV. リンクナース

リンクナースは、連合王国でつくられた役割で⁴⁾、ICTと現場とのつなぎ役である。経験豊富な現場の看護婦を任命して、情報の交換の要となり、ICTを補助して効果的な感染対策(予防、特定、制圧)を遂行する。最近では、日本においてもかなりの数の施設で任命している。

V. 施設基準等

厚生労働省は、MRSAなどの感染対策として次のような諸点をあげている。

- ①病室の個室化および個室の空調整備の促進
- ②各病室の入り口に速乾式消毒液の設置

文 献

- 1) Gardner AMN, Stamp M, Bowgen JA, Moore B : The infection control sister. *Lancet* 1962 ; ii : 710 711.
- 2) Moore B : The infection control sister in British hospitals. *Int Nurs Rev* 1970 ; 17 : 84 92.
- 3) Wenzel K : The role of the infection control nurse. *Nurs Clin North Am* 1970 ; 5 : 89 98.
- 4) Hospital Infection Working Group of DH/PHLS : *Hospital infection control*. Department of Health, London, 1995.
- 5) Hoffmann KK : The modern infection practitioner. ed Wenzel RP, In *Prevention and control of nosocomial infections*, 3rd ed, Williams & Wilkins, 1997 ; 33 45.